

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新
及び乾燥設備の更新プロジェクト

排出削減事業者名：横山容器工業株式会社

排出削減事業共同実施者名：株式会社F Tカーボン

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	横山容器工業株式会社
排出削減事業を実施する事業所 (複数の事業所で実施する場合、行を挿入し全事業所を記載すること)	
事業所名	千葉工場
排出削減事業共同実施者	
排出削減事業 共同実施者名	株式会社F Tカーボン
その他関連事業者 (複数の関連事業者がいる場合、行を挿入し全ての関連事業者を記載すること)	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新及び乾燥設備の更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

【方法論 001 ボイラー更新】

A 重油ボイラ 1 基を都市ガスボイラ 1 基へ更新する。高効率の都市ガスボイラへ更新し、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することで、CO2 排出量を削減する。

【方法論 035 乾燥設備の更新】

乾燥設備を更新し、燃料を灯油から都市ガスに転換する。高効率の乾燥設備へ更新し、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することで、CO2 排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

【方法論 001 ボイラー更新】

A 重油ボイラ 1 基を都市ガスボイラ 1 基へ更新する。高効率の都市ガスボイラへ更新することで、省エネルギーを図り、CO2 排出量を削減するとともに、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することによって、CO2 排出量を削減する。

【方法論 035 乾燥設備の更新】

乾燥設備を更新し、燃料を灯油から都市ガスに転換する。高効率の乾燥設備へ更新することで、省エネルギーを図り、CO2 排出量を削減するとともに、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することによって、CO2 排出量を削減する。

2.4 J-クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定され	<input checked="" type="checkbox"/> はい

ているか	<input type="checkbox"/> いいえ
------	------------------------------

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

変更なし

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2012年8月20日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2016年3月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新
035	乾燥設備の更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

【方法論 001 ボイラー更新】

活動量・原単位は採用しない。

【方法論 035 乾燥設備の更新】

対象	活動量	原単位
ベースラインエネルギー 使用量	ドラム缶の出荷量 (本)	ドラム缶の出荷量 (本) あたり のエネルギー使用量 (MJ)

4.2.2 活動量の採用根拠

【方法論 001 ボイラー更新】

活動量は採用しない

【方法論 035 乾燥設備の更新】

排出削減事業の対象設備である乾燥炉は、再生ドラム缶の製造工程においてドラム缶の乾燥等を行うものであり、エネルギー使用量は出荷量に連動している。したがって、ベースラインエネルギー使用量は、出荷量に比例すると理解されるため、出荷量を活動量とした。

4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

【方法論 001 ボイラー更新】

都市ガスボイラ及びボイラから蒸気の供給を受ける設備

【方法論 035 乾燥設備の更新】

乾燥設備

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法 に変更ある場 合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,PJ-1}}$	都市ガス使用量	Nm^3	536,018	ガス請求書及びメーター値 (m^3 から Nm^3 への換算係 数 0.957、大多喜ガス)	変更なし
ε_{PJ}	事業実施後都市ガスボ イラ効率	%	88.20 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
ε_{BL}	事業実施前 A 重油ボイ ラ効率	%	90.25 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/Nm^3	0.0408	都市ガス会社提供の値	変更なし
$CF_{\text{fuel,BL}}$	A 重油の単位発熱量あ たりの CO_2 排出係数	tCO_2/GJ	0.0708	J-クレジット制度デフォル ト値	変更なし
$CF_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱量 あたりの CO_2 排出係 数	tCO_2/GJ	0.0517	J-クレジット制度デフォル ト値	変更なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
536,018 (Nm ³)	0.0408(GJ/Nm ³)	0.0517(tCO ₂ /GJ)	
EM _{PJ}			1,129.3 (t-CO ₂)

6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
536,018 (Nm ³)	0.0408(GJ/Nm ³)	0.0708(tCO ₂ /GJ)	
88.20 (%)			
90.25 (%)			
EM _{BL}			1,511.4 (t-CO ₂)

6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0
LE			0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	1,511.4
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	1,129.3
リークージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	382

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン ①	実績 ②	ベースライン －実績 ①－②

8 再生可能エネルギー利用量

本事業は再生可能エネルギーを利用しない。